

発達障害者のワークシステム・サポートプログラム
職場対人技能トレーニング(JST)の改良

はじめに

障害者職業総合センター職業センターでは、平成 17 年度から、知的障害を伴わない発達障害（自閉症、アスペルガー症候群、学習障害、注意欠陥多動性障害）のある方を対象とした「発達障害者のワークシステム・サポートプログラム」を実施し、実際の支援を行うことで、発達障害者に対する職業リハビリテーション技法の開発・改良を進めてきました。その開発成果については、継続して、実践報告書や支援マニュアルに取りまとめるとともに、職業リハビリテーション研究・実践発表会を始めさまざまな機会をとおして発信しています。

「職場対人技能トレーニング（以下「JST」という。）」の支援技法は、平成 22 年度支援マニュアルNo.6「発達障害者のための職場対人技能トレーニング」にとりまとめ、地域障害者職業センターを始めとする全国の支援機関等に配布するとともに、支援者を対象とした講習を行いながらその普及に努めてきました。そうした結果、JSTは現在では多くの就労支援機関で実施されるようになりましたが、発達障害者の雇用の拡大等に伴い、「多様化する個々人の特徴や環境に適ったJST」の要望や意見を頂くようにもなりました。

このため、平成 27 年度より「非言語コミュニケーション」と「後発の支援技法との有機性」をキーワードに、従来のJSTの実用性を高めるための改良に取り組み、その成果を実践報告書としてとりまとめました。

なお、当該報告書の企業事例の掲載にあたり、大東コーポレートサービス株式会社のご協力に感謝申し上げます。

本報告書が、就労支援を担う方々に熟読いただき、発達障害者の方々のスキル習得に有用に活用され、職業リハビリテーションサービスの質的向上の一助となれば幸いです。

平成30年3月

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター職業センター
職業センター長 春日 利信